

栄東げんきっ子

《中学生編》

第133号 2020.9.1 発行

<編集発行>

栄東地区子ども未来会議

<問合せ先>

栄東まちづくりセンター

電話 711-2203

現代へアイヌ文化を継承ーウポポイ訪問記

栄東地区の烈々布神社（れつれっぷしんじゃ）ですが、「烈々布」がアイヌ語に由来することはご存じでしょうか。一説には、「道によって寸断された川」という意味があるとされています。

令和2年7月12日、白老町に民族象徴空間・ウポポイがオープンしました。今号では、栄東地区ともゆかりのあるアイヌ文化を現代へ継承することを目指しているウポポイを訪ねてみました。

●豊かな自然空間に施設が点在

ウポポイ（民族共生象徴空間）は、危機にあるアイヌ文化を守り、受け継ぐための拠点です。施設の愛称・「ウポポイ」は、アイヌ語で「（おおぜいで）歌うこと」を意味します。自然豊かなポロト湖ほとりに面した開放的な空間に博物館、工房、コタン（集落）、体験学習館などが点在します。



●伝統芸能・文化にふれる共生公園

最初に訪ねた国立民族共生公園エリアでは、アイヌの伝統的芸能、うたやおどりが披露され、アイヌ文化を体感できます。屋外ステージでは「コタンの語り」でアイヌの日々の暮らしの話を聞いたり、ムックリ（アイヌ民族口琴）の演奏や踊りが披露されたりしていました。

工房では、受け継がれているアツシ（民族衣装）や刺繍、木工などを実演しながら解説付きで間近にみられます。伝統的コタンには、再現されたチセ（家屋）が4棟あり、中に入ってアイヌの生活空間の再現を見ながら解説が聞け、生活文化がよく理解できます。

●博物館によみがえるアイヌの生活文化

何といても圧巻は、「国立アイヌ民族博物館」です。民族衣装や什器、アクセサリから遊び道具などの展示のほか、アイヌの歴史をたどれる展示を見ながら伝統的なアイヌ文化を感じることができます。

また、現代の作家による今に息づくデザインやアイヌの皆さんの生活文化を垣間見ることができます。入場には事前予約がいるなど制約はありますが、北海道のルーツ・アイヌ文化を探る旅に出てみませんか。

